

古写真や絵画で見る 仙台歴史散策

秋保温泉の風景

仙台市博物館 学芸普及室 倉橋 真紀

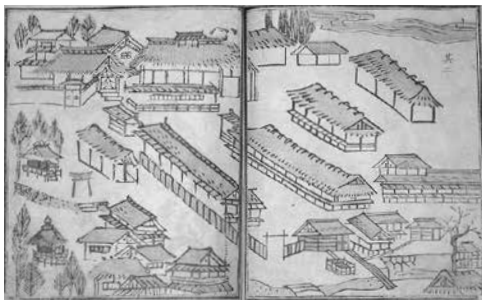
第7回

秋保温泉のはじまり

全国には多くの温泉がありますが、古代以来、敬称である「御」を付けて「御湯」と呼ばれていたことがわかる温泉は三カ所しかありません。

そのうちのひとつが平安時代から和歌に詠み込まれていた「なとりのみゆ（名取の御湯）」これは秋保温泉のことだと考えられており、天皇の病に効果があつたことから「御湯」と呼ばれるようになったと伝えられています。

江戸時代には、秋保温泉の名前と効能は広く知られるようになっていたようで、寛永十三年（一六三六）に亡くなつ



安政3年(1856)に刊行された『釣奇一覽』(横井 也有編)に見える秋保温泉 仙台市博物館蔵



明治時代末から大正時代初期に発行された絵はがきに見える秋保温泉 仙台市博物館蔵

秋保温泉でその湯守を代々務め、湯治場としての整備を進めたのが、現在ホテル佐勘を営む佐藤家の先祖です。江戸時代中期以降になると、全国的に遊山（行楽）として

湯守のいる温泉

た初代仙台藩主である伊達政宗は、亡くなる少し前に皮膚病を患った時、秋保の湯を仙台に取り寄せて洗ったことがわかっていきます。また、江戸時代後期の全国の温泉番付には「仙藩あきう湯」は「づつう（頭痛）によし」と紹介されています。

仙台藩では、温泉の源泉ごとにその管理を任される「湯守」と呼ばれる人がいました。湯守は、温泉を訪れる人が少なかつた江戸時代初期から、「湯銭」と呼ばれる入湯税のようなものを利用

の湯治が増え始め、秋保温泉の利用者も増加します。佐藤家以外にも宿屋を営む人が現れると、食事やサービスの工夫で競争するようになり、さらに多くの客でにぎわうようになりました。

にぎわいの風景

安政三年（一八五六）に刊行された『釣奇一覽』（上の図版）には、江戸時代末期の秋保温泉の風景が描かれています。画面中央の奥に、横長にひときわ大きく描かれた建物が湯守屋敷で、そのすぐ左隣の堀に囲まれた屋敷は藩主が利用した「御殿」だと思われま

す。御殿のすぐ下に見える神社は湯神社でしょう。秋保温泉の中心付近を南側から俯瞰した絵のようです。明治時代末から大正時代初期に発行された絵はがき（下の図版）にも、南側から見た風景が残されています。明治時代中期に取り壊された御殿は見えませんが、看板が掲げられている画面中央の建物の辺りが湯守屋敷があったところ、現在のホテル佐勘の場所だと思われま

す。どちらも、規模の大きい建物が多く見え、現在に通じる風景ができて始めていることがわかります。仙台市博物館では、『釣奇一覽』を常設展で、九月十六日（月）まで展示しています。原本は多色刷りで、よりにぎわいを感じることが出来ます。みなさんがご存じの秋保温泉の風景と比べ

に、ぜひご来館ください。

戦国の伊達氏 — 種宗から政宗へ

7月12日(金)～9月1日(日)開催!

戦国時代の東北地方で、最終的に最大の大名となった伊達政宗。そのルーツは鎌倉時代にさかのぼります。

本展覧会では、伊達氏の初祖・朝宗から歴史を説き起こし、14世種宗、15世晴宗、16世輝宗、そして17世政宗を中心に、戦国時代に躍動した伊達氏のすがたをたどります。

【観覧料】常設展示料金でご覧いただけます。
一般・大学生460円(360円)、高校生230円(180円)、小・中学生110円(90円)

※30名以上の団体は()内の料金。このほか各種割引があります。

【開館時間】9:00～16:45(入館は16:15まで)

【会期中の休館日】毎週月曜日(7/15、8/12は開館)、7/16(火)

会期中、展示替えがあります。
前期:7/12(金)～8/4(日)
後期:8/6(火)～9/1(日)

ズラリと並ぶ 歴代当主の画像

伊達家歴代画像のうち
17世 伊達政宗像(部分) [前期展示]
仙台市博物館蔵

政宗の愛刀、鑢国行も会期を通じて展示!



太刀 無銘
(鑢国行)
伊達政宗所用
仙台市博物館蔵

仙台市博物館 TEL:022-225-3074 ▶7月の休館日 毎週月曜日(7月15日は開館)、7月16日(火)

SENDAI CITY MUSEUM 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) ▶ツイッター @sendai_shihaku ▶博物館HP 仙台市博物館

検索